



# 常任委員会の活動

**平成23年5月16日、26日に所管事務調査を行いました。**

## 一 市立幼稚園の現地調査について（5月16日）

安田幼稚園で園の運営、課題等について現地調査を行いました。

安田幼稚園には5月1日現在、安田地区及び水原地区の一部（分田・堀越）からの3歳児25名、4歳児21名、5歳児14名の計60名（東日本大震災被災児2名受け入れ含む）が在籍しています。

園では幼児期の特性や一人一人の実態を踏まえ、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開できるよう基本方針を定め、教育目標の「やる気のある子 すなおな子 誰とでも遊べる子」の具現に努めています。

子どもの個々の育ちに合わせて望ましい心身の発達を促す幼児教育を進めるには、子どもと先生方、保護者と先生方の信頼関係をどう築いていくかが大きな課題とのことです。幼児期における基本的な生活習慣の形成や幼小の学びの接続等のため家庭、地域、小学校との連携も大切とのことでした。

また、発達障害を含む特別の配慮が必要な子どもたちへの対応については、親の理解、早期からの一貫した適切な支援のために保育現場と

関係機関のより一層の連携が望まれます。

先生方は、子どもたちの降園後に毎日行う子ども一人一人に対するミーティングや外部講師を招いての研修、園内研修などにより教育活動の充実を図っています。職員10名のうち正職員4名（園長、副園長、教諭2名）、臨時職員6名（担任受け持ちの講師2名、サポート員1名、介助員2名、用務員1名）と、半数が臨時という状況であり、幼児教育の良好な環境整備のためには改善が求められます。



安田幼稚園ワクワク行事  
お花見ランチデーの様子

## 二 水原中学校改築事業について（5月16日及び5月26日）

水原中学校改築事業については、平成21年度に作成した「水原中学校改築基本構想」に描く新しい水原中学校の姿を具体化するため、平成22年度に基本設計業務委託業者をプロポーザル方式で選定し、広範な検討を加えて基本設計の作成に入りました。

総務文教常任委員会や議員全員協議会で教育委員会部局から説明された基本設計案は、事業費や面積が以前に示されていた額、想定面積から大きく増え、財政面を含め、市長部局とも未調整であったため混乱が生じました。現在教育委員会部局として更に内部で検討した案を市長部局と協議・調整の段階とのことでした。

良い水原中学校をつくるのは皆の一致した思い

いす。水原中学校の改築事業は市としても大

事業であり、市全体の財政計画への影響についての考慮も必要です。事業を早く進めるためにも、市長部局と教育委員会部局の連携を密にし、より良い水原中学校づくりを進めていただきたいと思いま



築50年経過の水原中学校

視察研修について

○閉会中の継続調査事項（9月定例会まで）

**平成23年5月10日に所管事務調査を行いました。**

## 一 水原郷病院民営化後の状況について

水原郷病院の入院・外来患者数は、診療科により増減はあるものの年間累計で見ると前年とほぼ横ばいで、平成22年度決算見込みは、医師不足や看護師体制の不備の中で事業費用の減少（経費削減）により赤字となっている状況でした。

また、民営化後の状況としては、病院スタッフの動きや対応が良くなったと利用者からの感想が聞かれているとのことでした。

事業に係る施設整備等契約状況及び施設整備計画等の実施状況については、建物の老朽化による雨漏りやクラック等、利用者に影響のあるところや、業務に支障がある箇所の改修について、新病院の建設を考慮しつつ7月に判断することとのことでした。また、新たに購入する医療機

器については新病院へ移設することとした。

委員からは、増員する予定であった医師・看護師の充足を指定管理者へ求める意見や、医療機器購入の落札率100%について説明を求めるとともに、市に対して今後の改善を求めました。また、関連として新病院建設協議会設立の進捗について意見交換を行い、病院建設に対する市の考え方を議会にまず示すことを要望しました。

その他の意見として、常任委員会での内容が指定管理者へ伝えられるような取り計らいと、病院事務長の委員会への出席も含め検討するよう担当課へ求めました。

## 二 保育事業について

市内3保育園の民営化については、あやめ保育園・ほたる保育園（それぞれ平成24年4月1日民営化移行予定）が7月中に確認書の締結を行い、9月定例会に関係条例の改廃を提案する予定で進行中とのことでした。京ヶ瀬保育園（平成25年4月1日民営化移行予定）は、5月中旬に委託先の選定が行われ優先交渉権者が決まる予定で、秋ごろを目途に運営法人・行政・保護者会代表による三者協議会を立ち上げるとのことでした。

また、市内7箇所で開催されている児童クラブ（公立1箇所、公設民営1箇所、私立5箇所）については、それぞれの開設状況や利用者数等の実績について説明を受けました。児童クラブに勤務する指導員は、クラブの在籍児童数により配置数が定められていますが、7箇所のうち4箇所の児童クラブでは、その他に専門的知識を持った指導員も配置し、障害児の受け入れを行っているとのことでした。

市内法人の尽力により、子育て支援環境の整備が進められています。市としても法人に対して順調に運営できるようサポートを望みます。



委員会のようす

# 社会厚生常任委員会

○閉会中の継続調査事項（9月定例会まで）

- (1) 水原郷病院民営化後の状況について
- (2) 第5期阿賀野市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について
- (3) 子育て支援センターの運営状況について